

CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	マイスティア Fab3	階数	地上2F		
建設地	熊本県合志市竹迫	構造	RC造		
用途地域	市街化調整区域、指定なし	平均居住人員	50人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年		
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2022年7月 予定	評価の実施日	2021年12月27日		
敷地面積	15,682㎡	作成者	吉永	さい。	
建築面積	6,229㎡	確認日	2021年12月28日		
延床面積	6,959㎡	確認者	吉永		

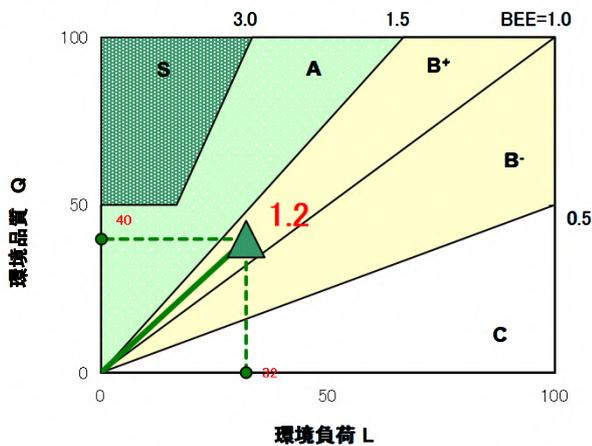
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.2

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$



■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

80%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点



80

評価点

■ 熊本県重点評価基準

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

86.3

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

62.5

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

82.5

【重点事項4】 循環型社会の実現

84.7

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

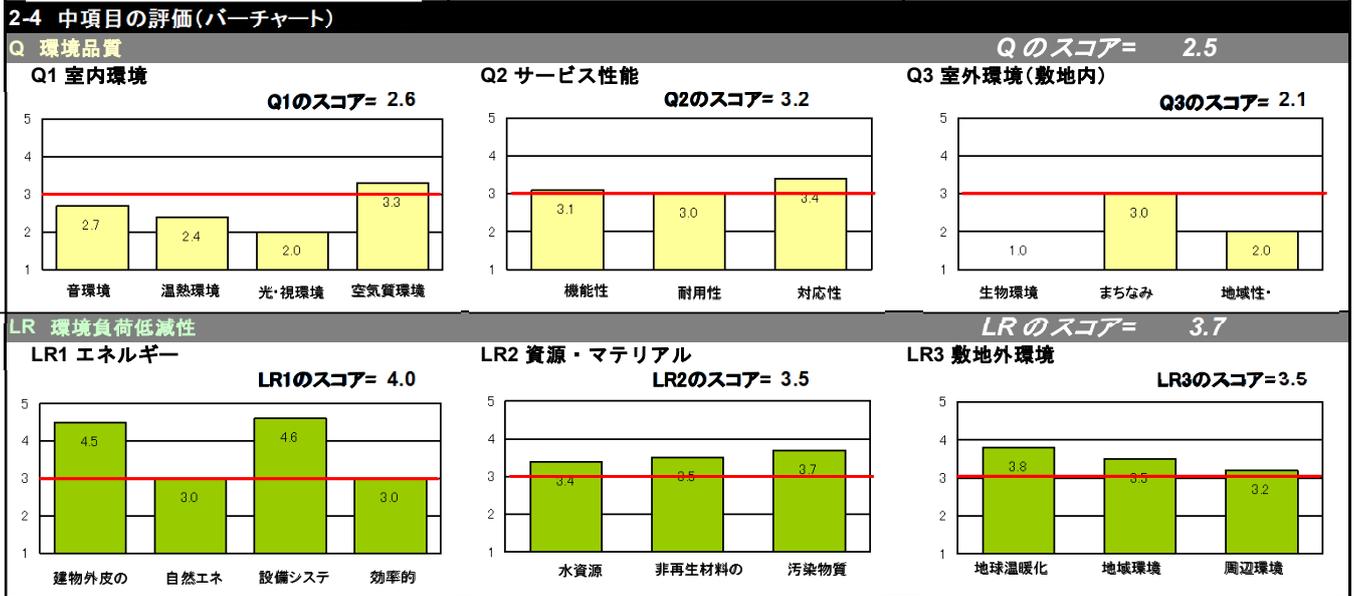
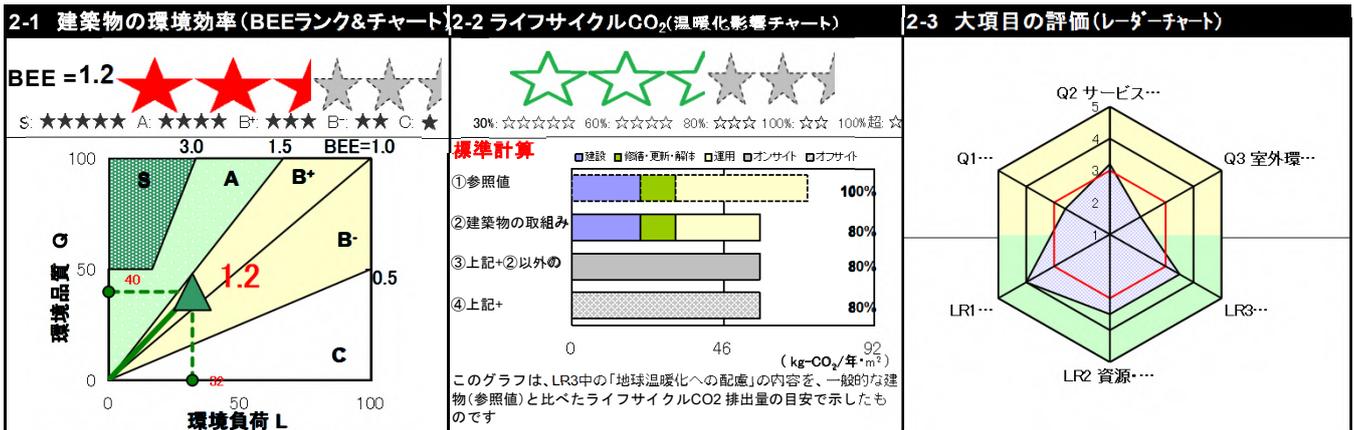
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	マイステア Fab3	階数	地上2F
建設地	熊本県合志市竹迫	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、指定なし	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年7月 予定	評価の実施日	2021年12月27日
敷地面積	15,682 m ²	作成者	吉永
建築面積	6,229 m ²	確認日	2021年12月28日
延床面積	6,959 m ²	確認者	吉永



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

周囲との調和に配慮し、敷地内には緑地を配置した。長期的に使用される物流倉庫としてふさわしい、機能的かつ安全な動線計画を行う。

Q1 室内環境

- ・外部に接する壁、屋根は断熱材を設置し、断熱性能の向上に努めた。
- ・規制対象品は全てF☆☆☆☆を使用。

Q2 サービス性能

- ・設備配管などは維持管理に配慮し、耐候性の高い資材を採用した。
- ・居室天井高を3.0mとし、圧迫感を感じさせない空間とした。また執務スペースに休憩室を設置し快適性に努めた。

Q3 室外環境(敷地内)

- ・敷地内にできる限り植栽を設け、温熱環境の向上に努めた。

LR1 エネルギー

- ・設備機器は省エネ性の高い機器を採用し、外部に面する部分は断熱材を設置し外皮の熱負荷抑制に努めた。

LR2 資源・マテリアル

- ・躯体と仕上材を容易に分別できるようにすることで、部材の再利用性に努めた。
- ・自動水栓、節水型の便器を採用し水資源の保護に努めた。

LR3 敷地外環境

- ・屋外照明は、光害の影響がでないよう周辺環境に配慮した。

その他

CASBEE-建築(新築)2016年版
マイスター Fab3

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									2.5
Q1 室内環境					0.32		-		2.6
1 音環境				2.7	0.15		-		2.7
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40		-		
1.2 遮音				1.8	0.40		-		
1 開口部遮音性能				1.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-		
1.3 吸音		【事務所モデル】床:タイルカーペット 天井:ロックウール吸音板		4.0	0.20		-		
2 温熱環境				2.4	0.35		-		2.4
2.1 室温制御				2.7	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38		-		
2 外皮性能				2.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20		-		
2.3 空調方式				3.0	0.30		-		
3 光・視環境				2.0	0.25		-		2.0
3.1 屋光利用				1.8	0.30		-		
1 屋光率				1.0	0.60		-		
2 方位別開口					-		-		
3 屋光利用設備				3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				1.0	0.30		-		
1 屋光制御				1.0	1.00		-		
3.3 照度				3.0	0.15		-		
3.4 照明制御				3.0	0.25		-		
4 空気質環境				3.3	0.25		-		3.3
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		【事務所モデル】使用建材は全てF☆☆☆☆		4.0	1.00		-		
4.2 換気				1.6	0.30		-		
1 換気量				3.0	0.33		-		
2 自然換気性能				1.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.33		-		
4.3 運用管理				4.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		【事務所モデル】建物全体が禁煙		5.0	0.50		-		
Q2 サービス性能				-	0.30		-		3.2
1 機能性				3.1	0.40		-		3.1
1.1 機能性・使いやすさ				2.3	0.40		-		
1 広さ・収納性				3.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				4.3	0.30		-		
1 広さ感・景観		【事務所モデル】天井高3.0m、窓設置		5.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース		【事務所モデル】リフレッシュスペースが執務スペースの23% (2階3sR&D、1階自販機設置)		5.0	0.33		-		
3 内装計画				3.0	0.33		-		
1.3 維持管理				3.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		

2 耐用性・信頼性			3.0	0.30		-		3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-		
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-		
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数			3.4	0.30		-		
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20		-		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	【事務所・工場】給水管・汚水管・通気管でB以上を使用	5.0	0.20		-		
6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-		
2.4 信頼性			2.8	0.20		-		
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-		
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-		
3	電気設備		3.0	0.20		-		
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-		
5	通信・情報設備		2.0	0.20		-		
3 対応性・更新性			3.4	0.30		-		3.4
3.1 空間のゆとり			4.4	0.30		-		
1	階高のゆとり	【事務所】階高4.3m(基準階) 【工場】階高3.8m(1・2階平均)	4.0	0.60		-		
2	空間の形状・自由さ	【事務所】0.12 【工場】0.05	5.0	0.40		-		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-		
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-		
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-		
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-		
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-		
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-		
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.38		-		2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-		1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-		3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-		2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50		-		
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-		3.7
LR1 エネルギー			-	0.40		-		4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		【建物全体】BPI _m =0.85	4.5	0.03		-		4.5
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12		-		3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.64	4.6	0.60		-		4.6
4 効率的運用			3.0	0.24		-		3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-		
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-		
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-		
集合住宅の評価			-	-		-		
4.1	モニタリング		-	-		-		
4.2	運用管理体制		-	-		-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-		3.5
1 水資源保護			3.4	0.20		-		3.4
1.1 節水		【事務所・工場】自動水栓+節水型便器+擬音装置	4.0	0.40		-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-		
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60		-		3.5
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10		-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20		-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生クラッシュラン、OAフローア	4.0	0.20		-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10		-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		【事務所・工場】 ・躯体と仕上材が比較的容易に分別可能(軽鉄下地) ・再利用できるユニット部材(OAフローア)	5.0	0.20		-		
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20		-		3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-		
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70		-		
1	消火剤		-	-		-		
2	発泡剤(断熱材等)	【事務所・工場】発泡系断熱材使用なし(グラスウール)	5.0	0.50		-		
3	冷媒		3.0	0.50		-		

LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		CO2排出率87%	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		【事務所・工場】燃焼機器なし	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	・光害対策ガイドラインのチェックリストの過半を満たす ・広告物照明無し	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 **マイスティア Fab3**

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		80
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				86.3	0.40	34.52
Q1-2.1.2	外皮性能	2.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	1.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.5	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.6	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				84.7	0.20	16.94
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

$$\text{総合評価点} = (\text{各重点事項の評価点} \times \text{各重点事項の重み係数}) \text{の総和}$$

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

$$\text{評価点} = (\text{各重点項目のスコア} \times \text{各重点項目の重み係数}) \text{の総和} \times (5/4) \times 20$$

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数